

# 西多摩医師会報

第201号 平成元年9月



韓信の股くぐり 秋川市

## 目 次

	頁		頁
1. 巻頭言		7. 文芸	
初秋所感 大塚 渉	2	熊の出る山 石井好明	15
2. 第7回西東京臨床糖尿病研究会を終って		悪夢の如き夏期休暇 小泉新策	16
公立阿伎留病院内科 高村 宏	3	孫のようなベビーギャングに	
3. 病診連携一つのアプローチ 西村邦康	3	おどかされるの記 平林信隆	17
4. 胃検診事業について 鈴木 修	7	8. 新入会員紹介	18
5. 思春期の子供たち(講演会)リポート		9. 医師会日誌	18
道又正達	13	10. あとがき	19
6. 理事会報告 総務部	14		

## 巻頭言

## 初 秋 所 感

副会長 大 塚 渉

先達て朝の茶の間にショックな映像をご覧になった方も多いと思います。それは、埋立地に、針のついた、しかもまだ生々しく血液の残った点滴用のビニール管が大写しになっている画でした。

最近の医療廃棄物処理が大きな社会問題としてクローズアップされて来た事は、諸先生方周知の事実です。

ご承知の通り「廃棄物は出す側に責任がある」と云う産廃処理法と云う法律があります。しかし乍ら自から処理する事が困難な場合、或は、出来ても、煙や悪臭等近隣に迷惑を及ぼす事等から、一般的には、大病院は、清掃会社に委託し、診療所は、一般廃棄物と合せて処理しているのが現状でしょう。その実態は、東京都清掃局による「昭和63年度医療機関から発生する廃棄物の実態調査結果」に詳述されて居ります。清掃会社にも、かなり厳しい条件が必要のようです。収集運搬だけなのか、処理処分も出来るのか、或は、どのような種類の廃棄物を取り扱えるのか等々。

医療廃棄物研究会の井川卓雄会長の云われる様に医療廃棄物が、一般産業廃棄物と同例に置かれている所に問題がありそうです。清掃会社の方も医療廃棄物に対するノウハウを必らずしも十分に確立しないまま、病院の清掃を引き受けている事もあると申して居ります。

余談になりますが、この夏まだ足腰の立つうちと、いや命のあるうちと、南ドイツからウィーンへの例の街道廻りツアーへ参加してみました。10組20人であります。旅も5、6日目になりますと、身分もぼちぼちバレ始め、結局7組が医療関係者でありました。

年頃も同じ我々の古い世代は、やはりドイツ語にある種の郷愁を感じているのでしょうか。1つのツアーに1人や2人の医師がいるのは、そうめずらしくはありますまい。しかしこれ程多いとは、一同啞然とした事でした。地は東北から、関東、関西と、各地からの参加者でした。おのずと地域医療の事、医師会

活動等の話になって来ます。関西のある市医師会では、この医療廃棄物を、自治体の指定する場所に各医療機関自ら運搬し、行政側が処理するのだと云います。

当医師会でも8月下旬には、公衆衛生部を中心に自治体側と懇談会が持たれる筈です。どんな名案が出るのか期待する所です。

前述しました様に現状では各自治体と医師会が話し合って自治体にまかせてあります。しかし乍ら、この自治体も逃げ腰の様です。考えて見れば当医師会を構成する西多摩には「西多摩地域広域行政圏協議会」と云う機関があります。これは、勿論それぞれの自治体という枠を取り払ってこの地方を広く見て行こうという立派な組織でしょう。これを軸に医療廃棄物問題を検討してみても如何なものでしょうか。国も都も、この医療廃棄物についての処理方針は、全く明解にされておらず、今後の課題になっております。従ってこの「西多摩地域広域行政圏協議会」がこの問題を処理してくれるなら、国や都は当然予算をつけるべきでしょう。勿論我々会員も応分の負担はすべきでしょうし、更に各自治体よりの保健衛生協力費をこれに充当するのも1つの方策ではないかと有じます。

この秋は、殊の外残暑も厳しく、会員共々健康に留意して残り半年の医師会業務を果したいと念じて居ります。よろしくご指導の程お願い申し上げます。

平成元年8月23日

以 上



## 第7回西東京臨床糖尿病研究会を終つて

当会は、公立阿伎留病院講堂を会場に、去る7月29日行なわれました。当日雨天にもかかわらず、80余名の多数の方々に御参加いただき、感謝しております。

今回のテーマは「糖尿病患者教育のシステム作り」で、第1部で症例検討、第2部で外来、入院の教育システムの実際の話し、第3部で日大 林洋一先生の講演という順で会をすすめました。

第1部の症例検討では、公立昭和病院、多摩老人医療センター、多摩協同病院の各施設より、NIDDMのケトーシス、結核を併発したDM、運動療法に関する症例が提示され、又併せて各施設の教育システムも簡単に紹介され、活発な討論がされました。

第2部では、私供、公立阿伎留病院での外来での教育システムを私と看護婦の清水が発表し、次に、立川相互病院の宮川高一先生が教育入院のシステムについて発表されました。宮川先生は、学会発表も多く、又患者さん向けに本も出版されている先生で、私自身、立川相互病院の教育システムは学ばせていただきたいとかねてより考えており、期待通り、

内容の充実したお話しでした。

第3部では、林洋一先生の患者教育のあり方についての講演があり、特にコメディカルの役割について詳しく述べられました。

今回の研究会を通して強く感じられたことは、各施設により、糖尿病診療のシステムは、各々独自のものではあるのですが、その診療の中心に患者教育があることに変わりはないということでした。又その中で、コメディカルの果たす役割の重要さは誰もが認めるところであり、今回参加された多くの栄養士さん、看護婦さん、保健婦さんも、意を強くしたのではないかと考えております。

又、病診連携の必要性及びそのあり方についても多くの発言がありました。

当会は、最後に医師会長西村先生と当会の世話人でもある杏林大学教授 川先生に御挨拶いただき会を終りました。

次回は11月頃 立川で行なう予定となっています。多数御参加下さるようお願いいたします。

公立阿伎留病院 内科 高村 宏

## 病診連携 一つのアプローチ 糖尿病研究会に出席して

西村 邦 康

現在の医療環境は医療技術の進歩、疾病構造の変化によって病診の役割分担、連携が言われており、病院はその設備機能及びスタッフの活用を、医療第一線の診療所は慢性疾患の管理が重要な役割となってきている。しかしペーパー1枚、血糖測定で簡単に診断のつく糖尿病であってもその病態把握はより精緻な検索が必要であり、その上で治療方針が確定される必要がある。我々の役割とされている糖尿病の相談指導管理は治療（投薬、注射処置）を主としてきた我々にはこの相談指導による管理は不得手である。このように見てみるとこの病診役割分担、連携は病院のもつ設備機能及びスタッフの力を我々が如何に上

手に活用するかと言う事になる。その意味で去る7月27日阿伎留病院で行われた西東京臨床糖尿病研究会は私にとって大変勉強になった会であった。地域医療計画策定、医療懇談会などの場で良く口にし、議論してきたこの病診連携、役割分担の言葉を空しく感じている昨今、多摩地区の各病院が病院の立場から工夫をこらした病診連携の取組、及び教育指導の実例報告の数々は私の眼を開いてくれ新たな勇気を与えられたような気がした。詳細は高村先生の報告（別稿）参照、例えば阿伎留病院では南部地区の大塚、湯川、鈴木の各医院で栄養士の相談指導が行われている事、看護婦の懇切な相談指導の報告、例えばフッ

(4)

トチェックはなるほどと教えられる事が多かった。公立昭和病院の報告では同病院の糖尿病に関する診療体系は病診連携を軸として別表資料に見られるような形でとらえられていることが呈示された。この体系は糖尿病ばかりではなく、患者紹介、患者バックなど病診連携の在り方に多くの示唆を与えてくれて、我々も大いに参考活用していきたいモデルであると考える。

糖尿病治療に力をいれている多摩地区の各病院の糖尿病受療者数は多くその受け入れ機能は限界に達しており、管理良好な患者は地元の医療機関でその管理を引き受けてくれることを望み、病院は人口一万に200人と言う潜在化している患者を掘り起こしこの人達に光を当てたいと異口同音に述べていた。この新しい勤務医グループの地域医療への取組に大いに感心したと同時に病診連携の主導が逆転したのではないかとさえ思った。西多摩医師会もこの受け皿作りの充実、即ち、看護婦、保健婦、栄養士などコメデカルの人達との連携如何が慢性疾患治療の成果の良否を問う重大なポイントの一つであることを、再認識しこれらのコメデカルの人達の力を充分活用して共により良い医療の地域への還元を計れるよう努力し病診連携の実を上げなければならない事を痛感した。最後に資料をこころよく利用させて戴いた公立昭和病院内分泌代謝科田中先生並びに当地区での研究会開催にお骨折り戴いた高村先生御礼申し上げます。

#### 資料1

##### 糖尿病患者指導のポイント

##### 初期教育が肝心

最初に「程度が軽い」といわれた患者ほど、後日合併症で苦しむケースが多い  
やはり、食事療法、運動療法が中心→薬物はその後 自覚症状がないことはアテにならないことを良く指導する。

必ず定期的受診、検査→血糖検査、HbA1c  
フルクトサミン、  
尿糖、尿蛋白  
腎機能、脂質、  
ECG、眼底検査

家族ぐるみの指導(伴侶ばかりでなく、子供も注意させる)

とにかく病院と縁を切らない事!

#### 病診連携への提言

患者のFLY AWAY(DROP OUT)対策  
糖尿病手帳の相互利用  
保健所、病院の栄養指導の活用  
糖尿病教室の早期の活用  
早期に専門医受診を  
眼科定期受診を内科側で管理  
自己モニター法の指導  
尿糖自己測定  
血糖自己測定

#### 病診連携の上での問題点(1)

— 一般的な問題 —  
指導内容の相違  
患者情報交換の難しさ  
主治医交替による患者の不安

#### 病診連携の上での問題点(2)

— 病院→診療所への患者紹介 —  
いわゆる大病院指向で患者が病院を受診したが、診療所に紹介したはずが受診していない事がある。眼科も含めて総合的に管理できる施設が少ない。  
診療所は処方日数が少ないので困る。

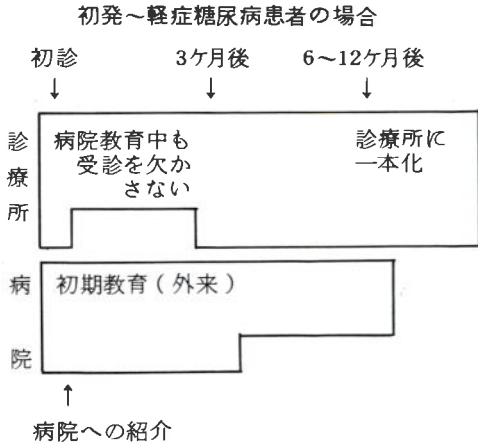
#### 病診連携の上での問題点(3)

— 診療所→病院への患者紹介 —  
紹介した患者が返ってこない  
患者が「病院に行くとすぐ入院を勧められる」と嫌がって受診しない  
紹介したはずが受診していない  
病院は待ち時間が多い(診療待ち、会計、投薬)  
教育入院を依頼したが、適応なしと断われた  
"ふきだまり"の患者の処遇に困っている

#### 資料2

当院における初期教育～患者紹介方法  
(公立昭和病院)





教育入院は適宜考慮している

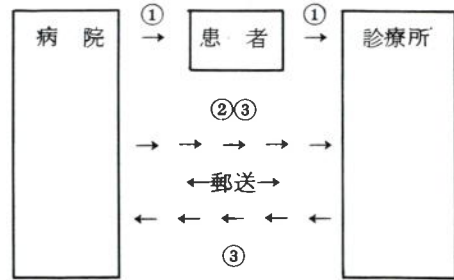
診療所で既に入院指示されているか？

既に指示され納得している場合は入院が良い。

患者の理解度は？

患者の意欲は？

診療所へ御紹介する場合  
指導内容が一致していること  
確実に患者が受診すること



- ① 患者には簡単な紹介状と糖尿病手帳のみ持たせます。
  - ② 患者のデータシート } 当院受診翌日に当
  - ③ 受診確認用のハガキ } 院より発送します。
- (受診した・しない)を病院宛に返送していただく。  
受診していない場合当院より患者に再連絡を取る。

資料4

医院

先生 御机下

貴院より御紹介いただきました患者 殿 月 日  
 受診されました。早速、精査・教育・栄養指導・初期治療を開始いたしました。  
 当院には、[ ]週間に1回ずつ通院させますので、貴院では[ ]週間毎の検査、  
 御診察を続けてお願いできればと存じます。診察、検査結果、御投薬内容などは糖  
 尿病手帳に御記入いただきますと幸甚です。

検査には以下の項目を含めていただけますようお願いいたします。

[ 血糖、HbA1c、フルクトサミン ] 血糖値は食事との時間関係を明記下さい。  
その他 → [ ]

しばらくは貴院と当院の両方に通院させますが、初期教育終了後は貴院に一本化し  
てお願いする事になろうかと存じます。その節はまた宜しく願いたします。

付記：

平成 年 月 日

公立昭和病院 内分泌代謝科 糖尿病外来：

資料5

医院

先生 御机下

前略、いつもお世話になっております。

患者[ ]殿 御紹介申し上げます。

詳細なデータ、投薬内容などは既に別便で御送付させていただいた通りでございます。今後も生涯教育を継続する必要があると考えられますので、貴院での御加療の程宜しくお願いいたします。

今後も貴院との病診連携を更に深めて行きたいと願っております。

また糖尿病患者の初期教育・治療には今後も尽力して参りますので宜しくお願い申し上げます。

草々

平成 年 月 日

公立昭和病院 糖尿病外来 内分泌代謝科 眼科

追伸：病歴詳細・投薬内容サマリーは、患者さんの当院受診翌日に別便で発送致しております。もし患者さんの貴院受診の方が先になってしまいました場合でも、数日中には届くと思っておりますのでご容赦下さい。

〔氏名〕 [ ] [ ]才〔男・女〕 職業[ ]

〔診断〕#1 インスリン非依存性糖尿病（肥満型・非肥満型） 罹病年数（ ）年

#2

#3

〔家族歴〕 なし・あり・不明 〔嗜好〕飲酒(++,+,-)喫煙(+,-)甜食(+,-)

〔既往歴〕

〔プロフィール〕

〔75グラム oGTT〕

〔グルカゴン負荷テスト〕

／／	0	30	60	90	120	180
血糖						
尿糖						
I R I						

／／	前	後
Cペプチド		
I R I		

インスリン分泌予備能（良、不良）

〔指示カロリー〕（ ）単位（＝ キロカロリー）

〔運動量の指示〕 積極的に・あまり無理をしない様に（← の為）

〔指導の理解度〕 良好・普通・やや悪い

コントロールの指標	初診（ / / ）	現在（ / / ）	指導目標値
体重（kg）			
空腹時血糖（mg/dl）			
食後血糖（mg/dl）			
ヘモグロビンA1c(%)			

〔眼合併症〕 (-,+)→

〔糖尿病性腎症〕 (-,+)→ BUN/Crtn/UA / / U-Prot (-,+,++,+++)

〔糖尿病性神経症〕 (-,+)→

〔投薬その他の連絡事項〕

〔今までの通院頻度〕 内科：( )ヶ月毎 眼底検査：( )ヶ月毎

## 資料6

東京都小平市天神町2-450

公立昭和病院 内科外来

田中祐司行

平成 年 月 日 来院した。平成 年 月 日 現在来院していない。

## 胃検診事業について

鈴木 修

福生保健所で実施されている胃検診事業も本年で4年目をむかえ、その成果もあがって来ている様である。

先日昭和63年度の胃がん検診実施報告がされたので、その資料の一部を別表に掲載する。(胃検診委員の先生方には報告済み)

受診者数は毎年多少増加の傾向にあるが著しい変化ではない。これも各方面で(市町村、農協、商工会、各事業所等)胃検診が実施されている関係であり、これ以上の急激な増加は考えられない。

要精検者のうち実際に精検を受けない者も見られるがその人達のもれがない様にする事も必要であろう。精検者が主として大病院に集まるのも現在の傾向である様だ。

63年度は6名の癌症例が発見されたが、内5名までが胃検診の受診歴がある人達である。これを考えると吾々が日常行っている胃部直接レ線診断及び胃内視鏡検査に於ては特に慎重に検査を施行する様心がけねばと改めて感じた次第である。

胃がん検診間接撮影フィルムの見学会は

毎月 第三火曜日

午後2時30分から

福生保健所で実施されている。

都のがん検診センターから野本先生が出張され(いつも遠方からお出でいただき深謝)西多摩から青梅、福生、阿伎留の三病院から交互に2名、計3名で読影を行っている。委員の先生には順に参加をお願いしているが、委員以外の先生も御都合のつく折には是非参加をお願いしたい。

以上



昭和63年度保健所(西多摩地域)に於ける胃がん検診事業実施状況

区 分		総 数					福生保健所					五日市保健所					秋川保健相談所					青梅保健所				
		受診者数			異常なし	異常検出者数	受診者数			異常なし	異常検出者数	受診者数			異常なし	異常検出者数	受診者数			異常なし	異常検出者数	受診者数			異常なし	異常検出者数
年齢別	性別	計	新	再			計	新	再			計	新	再			計	新	再			計	新	再		
		総 数	計	1,657	251	1,406	1,229	428	685	132	553	513	172	344	31	313	270	74	575	75	500	407	168	53	13	40
男	409		57	352	247	162	192	35	157	122	70	98	6	92	64	34	108	14	94	57	51	11	2	9	4	7
女	1,248		194	1,054	982	266	493	97	396	391	102	246	25	221	206	40	467	61	406	350	117	42	11	31	35	7
34歳以下	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	14	5	9	12	2	5	2	3	5	0	3	1	2	3	0	3	1	2	2	1	3	1	2	2	1
35～39歳	男	55	21	34	41	14	34	13	21	29	5	11	4	7	6	5	10	4	6	6	4	0	0	0	0	0
	女	202	70	132	168	34	89	35	54	77	12	41	12	29	36	5	68	21	47	51	17	4	2	2	4	0
40～44歳	男	56	8	48	34	22	33	6	27	21	12	9	0	9	8	1	12	2	10	4	8	2	0	2	1	1
	女	257	49	208	201	56	94	23	71	79	15	48	5	43	40	8	110	18	92	78	32	5	3	2	4	1
45～49歳	男	59	12	47	43	16	25	7	18	17	8	10	0	10	8	2	23	5	18	17	6	1	0	1	1	0
	女	219	26	193	174	45	85	13	72	63	22	31	3	28	28	3	98	7	91	78	20	5	3	2	5	0
50～54歳	男	41	4	37	26	15	13	3	10	8	5	9	0	9	7	2	18	0	18	11	7	1	1	0	0	1
	女	174	23	151	142	32	69	13	56	54	15	27	1	26	22	5	70	8	62	59	11	8	1	7	7	1
55～59歳	男	30	6	24	14	16	17	3	14	8	9	5	1	4	4	1	8	2	6	2	6	0	0	0	0	0
	女	166	8	158	123	43	66	4	62	49	17	35	2	33	25	10	61	2	59	46	15	4	0	4	3	1
60～64歳	男	88	6	82	46	42	40	3	37	25	15	25	1	24	11	14	19	1	18	9	10	4	1	3	1	3
	女	145	10	135	111	34	61	6	55	48	13	38	0	38	34	4	38	3	35	23	15	8	1	7	6	2
65～69歳	男	52	0	52	28	24	23	0	23	13	10	16	0	16	10	6	10	0	10	4	6	3	0	3	1	2
	女	56	2	54	40	16	23	1	22	16	7	13	1	12	10	3	15	0	15	10	5	5	0	5	4	1
70歳以上	男	28	0	28	15	13	7	0	7	1	6	13	0	13	10	3	8	0	8	4	4	0	0	0	0	0
	女	15	1	14	11	4	1	0	1	0	1	10	0	10	8	2	4	1	3	3	1	0	0	0	0	0



昭和63年度保健所(西多摩地域)における胃がん検診

(6月末現在)

東京都福生保健所

1、受診結果の内訳

一 次 検 診		総 数	福 生	五 日 市	秋 川	青 梅
	受診数	1 6 5 7	6 8 5	3 4 4	5 7 5	5 3
	異常なし	1 2 2 9 (74.2)	5 1 3 (74.9)	2 7 0 (78.5)	4 0 7 (70.8)	3 9 (73.6)
	要精検者数	4 2 8 (25.8)	1 7 2 (25.1)	7 4 (21.5)	1 6 8 (29.2)	1 4 (26.4)
二 次 検 診	受診数	3 6 8 (86.0)	1 4 2 (82.6)	6 8 (91.9)	1 4 5 (86.3)	1 3 (92.9)
	未受診数	4 0 (9.3)	1 8 (10.5)	5 (6.8)	1 6 (9.5)	1 (7.1)
	連絡不能	2 0 (4.7)	1 2 (6.9)	1 (1.3)	7 (4.2)	—
	医療機関 結果票	あり なし	3 4 4 (93.5) 2 4 (6.5)	1 3 4 (94.4) 8 (5.6)	6 8 (100.0) —	1 3 (100.0) —

( ) : %

2、精密検診の結果

一 次	受診者数	総 数	福 生	五 日 市	秋 川	青 梅	
	要精検者数	4 2 8 (25.8)	1 7 2 (25.1)	7 4 (25.1)	1 6 8 (29.2)	1 4 (26.4)	
二 次 検 診 結 果	精検受診者数	3 6 8 (86.0)	1 4 2 (82.6)	6 8 (91.9)	1 4 5 (86.3)	1 3 (92.9)	
	精検結果数	3 4 4 (93.5)	1 3 4 (94.4)	6 8 (100.0)	1 2 9 (89.0)	1 3 (100.0)	
	精 査	直接撮形	5 1 (14.8)	1 9 (14.2)	1 6 (23.5)	1 1 (8.5)	5 (38.5)
		~ +内視鏡	7 6 (22.1)	2 5 (18.6)	1 6 (23.5)	3 3 (25.6)	2 (15.4)
	内 視 鏡	内視鏡	2 1 7 (63.1)	9 0 (67.2)	3 6 (53.0)	8 5 (65.9)	6 (46.1)
		組織検査(再掲)	( 7 5 )	( 4 1 )	( 1 1 )	( 2 0 )	( 3 )
		記入なし	—	—	—	—	—
	風 災	胃がん	5	1	3	1	—
		早期がん(再掲)	( 3 )	( 1 )	( 1 )	( 1 )	—
	関 心	不明のもの	1	—	1 (腺がん)	—	—
		良性隆起性病変	3 2	1 4	2	1 4	2
	見 受	胃潰瘍	7	4	1	2	—
		十二指腸潰瘍	6	1	1	4	—
	疾 患	胃十二指腸潰瘍	1	1	—	—	—
胃潰瘍はん痕		1 5	8	4	3	—	
結 果	十二指腸潰瘍はん痕	8	3	—	5	—	
	その他の疾患	2 7	1 2	3	1 2	—	
	胃炎	9 3	4 4	1 0	3 5	4	
	異常なし	1 6 5	5 3	4 4	6 1	7	

( ) : %

## 昭和63年度精密検査者の受診状況（医療機関別）

平成元年6月末現在

二次検診受診場所			受診者数	一次検診受診場所			
医療機関名	所在地	福生保健所		五日市保健所	秋川保健相談所	青梅保健所	
西多摩医師会推薦	井上医院	青梅市	11	—	4	2	5
	沢井診療所	"	1	—	—	—	1
	青梅市立総合病院	"	14	6	6	1	1
	川辺医院	奥多摩町	5	—	—	—	5
	村山医院	羽村町	2	2	—	—	—
	森整形外科羽村分院	"	1	1	—	—	—
	横田クリニック	"	8	4	—	4	—
	大聖病院	福生市	16	12	—	4	—
	西村医院	"	22	20	—	2	—
	福生病院	"	79	54	5	20	—
	福生クリニック	"	13	13	—	—	—
	米谷内科医院	"	5	2	—	3	—
	渡辺医院	"	6	6	—	—	—
	秋留台病院	秋川市	20	—	—	20	—
	阿伎留病院	"	60	—	24	36	—
	大塚内科	"	21	—	1	20	—
	清水外科	"	4	—	—	4	—
	湯川医院	日の出町	6	—	5	1	—
	伊奈診療所	五日市町	2	—	2	—	—
鈴木内科	"	17	—	17	—	—	
小計		313	120	64	117	12	
その他	都立駒込病院	文京区	1	—	1	—	—
	日本医科大付属第1病院	千代田区	1	—	1	—	—
	都立府中病院	府中市	1	1	—	—	—
	高沢病院	瑞穂町	1	1	—	—	—
	立川共済病院	立川市	1	1	—	—	—
	目白第2病院	福生市	1	1	—	—	—
	大門診療所	青梅市	1	—	—	—	1
	浅見胃腸科外科	昭島市	3	1	—	2	—
	うしお病院	昭島市	1	1	—	—	—
	セントラルクリニック	中央区	1	1	—	—	—
	山田胃腸科外科医院	文京区	1	1	—	—	—
	みほり内科胃腸科	昭島市	2	—	—	2	—
	東京医大八王子医療センター	八王子市	1	—	—	1	—
	野村病院	昭島市	1	—	—	1	—
	東伏見医院	保谷市	1	—	—	1	—
	管家医院	立川市	1	—	—	1	—
	田代医院	秋川市	1	—	—	1	—
	酒田内科クリニック	所沢市	1	—	—	1	—
	(財)東京都がん検診センター						
小計		31	14	4	12	1	
総計	計十	344	134	68	129	13	

昭和 6 3 年度保健所における胃がん検診により  
発見されたがん症例

東京都福生保健所

症例	年齢	男・女	住所	受診歴	訴え	検診結果	診断分類	診断場所*	治療場所*	備考
1	57	♀	福生市	1年前	有	Cチェック	進行がん	西多摩	西多摩	
2	46	♀	五日市町	1年前	無	Aチェック	ⅡC	西多摩	西多摩	
3	60	♂	五日市町	1年前	無	Aチェック	腺がん	西多摩	昭一島	分類不明
4	69	♂	五日市町	1年前	無	Aチェック	Bor Ⅲ	西多摩	西多摩	
5	60	♀	福生市	4年前	有	Aチェック	ⅡC+Ⅲ	府中	府中	
6	71	♀	秋川市	無し	無	Bチェック	ⅡC	西多摩	西多摩	
7										

\* : 受診医療機関所在地

### 平成元年度 保健所における胃がん検診事業日程表

☆受付時間午前9時～10時

東京都福生保健所

会場 福生 五日市 秋川 青橋 : 福生保健所・五日市保健所・日の出町保健センター : 秋川保健相談所 : 奥多摩地区	4月	4日(火) 福生	11日(火) 福生	13日(木) 五日市	15日(土) 秋川	※ 18日(火) 福生	21日(金) 秋川	25日(火) 福生	27日(木) 五日市	28日(金) 秋川			9
	5月	2日(火) 福生	9日(火) 福生	11日(木) 五日市	12日(金) 秋川	※ 16日(火) 福生	19日(金) 秋川	23日(火) 福生	25日(木) 五日市	26日(金) 秋川			9
	6月	6日(火) 福生	8日(木) 五日市	9日(金) 秋川	13日(火) 福生	16日(金) 秋川	※ 20日(火) 福生	22日(木) 日の出	23日(金) 秋川	26日(月) 福生	27日(火) 福生	28日(水) 福生	11
	7月	4日(火) 福生	7日(金) 秋川	11日(火) 福生	13日(木) 五日市	14日(金) 秋川	※ 18日(火) 福生	21日(金) 秋川	25日(火) 福生	27日(木) 五日市			9
	8月	1日(火) 福生	8日(火) 福生	10日(木) 五日市	11日(金) 秋川	15日(火) 福生	19日(土) 秋川	22日(火) 福生	24日(木) 五日市	25日(金) 秋川			9
	9月	2日(土) 羽村町	5日(火) 福生	8日(金) 秋川	12日(火) 福生	14日(木) 五日市	※ 19日(火) 福生	22日(金) 秋川	26日(火) 福生	28日(木) 五日市	29日(金) 秋川		10
	10月	3日(火) 福生	12日(木) 五日市	13日(金) 秋川	※ 17日(火) 福生	20日(金) 秋川	21日(土) 奥多摩	24日(火) 福生	26日(木) 五日市	27日(金) 秋川			9
	11月	2日(木) 奥多摩	7日(火) 福生	9日(木) 五日市	10日(金) 秋川	14日(火) 福生	16日(木) 五日市	18日(土) 秋川	※ 21日(火) 福生	24日(金) 秋川	27日(月) 福生	28日(火) 福生	11
	12月	5日(火) 福生	8日(金) 秋川	12日(火) 福生	14日(木) 五日市	15日(金) 秋川	19日(火) 福生	21日(木) 五日市	26日(火) 福生				8
	1月	9日(火) 福生	11日(木) 五日市	12日(金) 秋川	※ 16日(火) 福生	19日(金) 秋川	23日(火) 福生	25日(木) 五日市	26日(金) 秋川				8
	2月	6日(火) 福生	8日(木) 五日市	9日(金) 秋川	13日(火) 福生	16日(金) 秋川	※ 20日(火) 福生	22日(木) 日の出	23日(金) 秋川	27日(火) 福生			9
	3月	6日(火) 福生	8日(木) 五日市	9日(金) 秋川	13日(火) 福生	16日(金) 秋川	※ 20日(火) 福生	22日(木) 五日市	23日(金) 秋川	27日(火) 福生			9

※ 印は専門委員会開催日 第3火曜日 2時30分から



## 盛会 157 名が集う『思春期の子供たち』

梅雨の愚図つきがちな日々が続き、講演前夜も嵐を思わせる豪雨、それに思春期問題という誰もが大切なことだとしながらも未だに根づいてない地味なテーマなどなど去る6月17日の当日まで不安材料いっぱいでした。出席予定者がある程度把握しようとの試みで、西多摩全域の教育委員会に頼み5月末実計したところ30名ソコソコだったことは、最大の衝撃でした。

しかし、当日は久し振りの好天に恵まれ喉を潤すジュース100個(返還保証付)もアッサリ底をつく始末、100名大目標としただけに人集めに四苦八苦して共に東奔西走した同志諸氏との歓喜の握手は、これから始まる講演会の盛会を約するものでした。

定刻となり、小生の稚拙な司会で始まり、西村西多摩医師会長、湯川学校医部長両先生の挨拶。『アメリカのエイズと少年少女たち』と題しての近藤肇先生の応援講演が開口一番コンドームの近藤ですと会場を賑す愛敬のある滑り出しをして、エイズを性感染症として捉えたくだりでの噛みくだいた説明は、鮮明なスライド描写と共に多くの方よりとても勉強になったと聞き及んで居ります。愈々特別講演の江幡玲子先生の登壇となり、積年の研

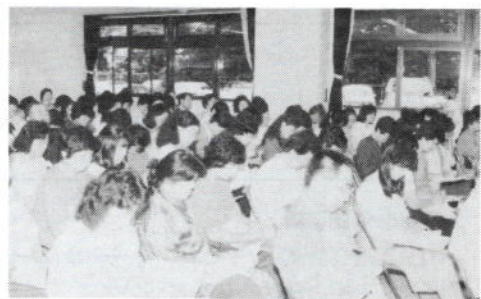
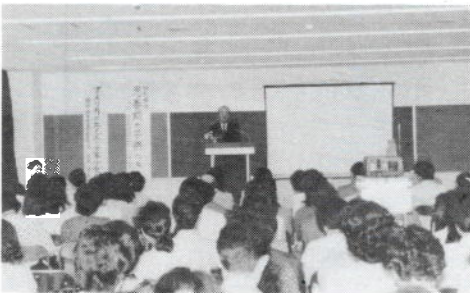
究が随所に窺える多岐に亘る思春期問題を次々と事例を持ちだして話を進めてゆく講師の語り口は、聴講者の感興を欲しいままにしたようです。終盤となり女子大生のセクシュアリティに言及して、授業でコンドームを披露して若し良かったら差し上げますと言ったところ一つ残らず持ち帰ったとか。

次いでマイルーラの説明を近藤先生の補足で済ませたあと、突如江幡女史が呼気一番コンドームを最大限に膨張させるファイナル・ショーで一同仰天し、万雷の拍手で閉会となりました。

原稿の末尾となりましたが、今回の講演会に御協力下さいました、諸先生はじめ各方面の皆様に深く感謝申し上げます。企画した一員として西多摩医師会の学校保健活動に微力ながら協力できたものと自負して居ります。

講演内容の記述に難渋苦慮の挙句、大変な遅報となり、講演の雰囲気の一部をお伝えする程度となりました。ビデオ収録されてますので、ご希望の方は医師会事務局まで。

8月24日雷のため停電となり、ワープロに200字くらい叩いた原稿が全部消滅して、ガックリしました。 文責 道又記





理事会報告

7月定例理事会

平成元年7月25日(火) P.M 7:30

福生「ホテルポニー」

議事録署名人 { 唐橋理事  
湯川理事

1 報告事項

(1) 都医地区医師会長協議会報告及び三多摩ブロック地区医師会長協議会報告

西村会長

1. 第196回(臨時)代議員会結果について

2. インフルエンザ予防接種について

3. 3才児の眼科検診について

3才児視力検診実施に伴い精密検診医療機関として協力する場合の事務手続等。

4. 自賠責保険の診療費算定基準の設定について

日本医師会は日本損害保険協会及び自動車保険料率算定会と協議し、次の如き申し合せを行った。

① 自動車保険の診療費については、現行労災保険診療費算定基準に準拠し、薬剤等「モノ」についてはその単価を12円とし、その他の技術料については、これに20%を加算した額を上限とする。

② ただしこれは個々の医療機関が現に請求し、支払を受けている診療費の水準を引き上げる主旨のものではない。

(2) 三多摩地区庶務担当理事連絡会報告

足立理事

(3) 地区医師会公衆衛生担当理事連絡会報告

林 理事

平成元年度インフルエンザ予防接種の実施について話し合われた。

平成元年度の実施方法は国の動向等に配慮し、集団接種と個別接種の併用方式により実施する。

(4) 公衆衛生委員会報告

林 理事

(5) 「納涼会」報告

唐橋理事

方法	集団接種方式	個別接種方式
対象	小学生・中学生	未就学児童(保育・幼稚園児)
方式	63年度方式(保護者の意向確認方式及び二段階意向調査方式)	保護者の意向と被接種者の状況により接種日を選択する方式
改善点	63年度の説明書等を元年度向けに改善 医師向け解説書にその後の文献・資料を加える	左記に同じ 個別接種用の問診票の参考例を作成する

2 報告承認事項

(1) 入退会会員 — 承認 —

(2) 8月中の理事会休会について — 承認 —

ことになっている。

西多摩では集団接種とする

— 承認 —

(2) 産業廃棄物の取扱について

林 理事

医療産業廃棄物の処理については、各市町村が同一歩調でやるようにする。

公衆衛生部で、企画し各市町村の担当課長に集っていただき、話し合いをしてもらう。

— 承認 —

(総務部)

3 協議事項

(1) インフルエンザ予防接種について

林 理事

未就学児については都内では個別接種と決定しているが、三多摩地区においては、個別、集団のどちらを選択してもよい

## 文芸

## 熊の出る山

午後6時を少し過ぎたばかりなのに、10月下旬の日の暮れは早く、明るいバスの車窓が遠ざかると、あたりは真暗闇。

予約した宿はバス停のそばの筈だが、何も見えない。停留所を間違えたかなと思いがながら、よくよく見ると、黒い家の輪廓が浮かんできた。その裏口から僅かに明りが洩れている。声をかけると、そこが宿だった。中は小料理屋らしいカウンターになっていて、奥が民宿であった。

その夜は他に客もなく、古びた8畳間に布団を敷いてくれた。

鈴鹿山系北端に位置する標高1,084メートルの<sup>リョウセン</sup>霊仙山に登ろう、と思い立ったのは12年前、岩手山麓網張温泉で合部屋になった若い医者から、関西ではいい山だと聞いたからだ。

宿の人に山の情報を聞いたが、シーズンになると大勢登りに来ますという程度で、意外に無関心のようなだった。

翌朝、地図とガイドブックを頼りに、宿を出て補装道路を南に向う。上丹生という小綺麗な部落をぬけると補装がきれ、両側の秋の野の花が、曇天の山歩きの気持を明るくしてくれる。

小川を渡って右に曲り、いよいよ山にさしかかるといふ所に、ブリキの看板が立っていた。

「“注意告ぐ”最近熊が山林内に出没しておりますので危険ですからご注意下さい。米原町」(下線赤字)

日付けは入っていないが、ペンキも新しく、時効になっていそうもない。

熊が出るなんて、宿の人も言ってくれなかった。ガイドブックにも書いてない。網張でも、そんな話は出なかった。

もう人家はなく、どんな熊が出るのか聞く訳にもゆかない。北海道じゃないんだから、ヒグマが出ることはなかるう。

今は秋、熊は飢えてはいないだろう。第一、熊に出会うと決ったものではないし、出会い

そうな気もしない。ここまで来て引き返すなんて、余りに惜しい。」ご注意下さい」と書いてあるが、「山に入るな」とは書いてない。ゆこう、と決める。(結果がわかるければ、魔がさしたということになるのであろう。)

ナタを持って来ればよかった。しかし、イザとなったら五十歩百歩だろう。物音を立てながらゆけば、むこう様が避けてくれる筈、と手頃な枝を捨て、道ばたの木や石を叩きながら登り出した。

漆が滝という、一応立派な滝を横に見て、更に谷をつめる。道はいつの間にか溪流を離れ、踏み跡程度になり、傾斜を増して手が必要になる。

これはおかしいと思いながら、小さい岩を乗り越えたら、目の前に、房の上半分が赤く、下半分が緑の実をつけた草(後で調べたら、マムシ草のようであった。)が立ちはだかった。

暗い森の中では、妙に薄気味わるい姿だった。途端に、道を間違えた、バックしよう、と心が決まる。

熊が出るという山林に迷いこむなんて、と浮足立ち、熊に見られているような気がして、今登って来たところを一散に走り下りる。

ふと向うを見ると、ガスの晴れ間から、明るい笹の山肌が見える。霊仙はあっちだ、反対側に登りかけたのだ。

間もなく樹林帯を抜けて、尾根に出た。尾根は一面の笹。風が強いので、稜線避けて弁当にする。(パンダは笹が好きだ。とすると熊も笹が好きかも知れない。とすると笹山には熊が出るかも知れない、などという物騒な連想は、その時、浮かばなかった。)

薄陽ももれて、ゆるやかなスロープを描く笹の尾根歩きの心地よく。それから熊のことを忘れてしまった。

伊吹山らしい山塊の頂きは雲の中だ。

経塚山という手前のピークを越えて、山頂に近づくと、あたりは白い菊の花だらけ。

(16)

(正式にはノジギクというらしい。)

丈は低い花は下界でおなじみの白い菊と全く同じ。もっと山の花らしく変ってれば、尚よかったのに。

風が強いので、山頂の道標のそばに腰を下ろす。見えるのは、見知らぬおだやかな山ばかり。しかし、目標に到達した喜びに充たされた山頂の休憩は、何度味わってもいいものだ。

下山の途につく。白菊のお花畑は忽ち過ぎ、暫らくは、草もみじにリンドウやトリカブトなどの青い花が点在する山上の楽園。久住山から牧の戸峠への下りを思い出す。

汗拭峠から急な下りとなり、<sup>標</sup>標が畑という廃村にさしかかる。奥多摩の絹笠や小袖の廃

屋そっくりで、人の営みのはかなさを感じる。

間もなく、急な下りが続いて林道に出た。ここにも、登山口の道標と並んで、ブリキの熊注意報が立っている。

やはり、熊が出る危険があったのだ。会わなくて、本当によかったなあ、とひと休みする。そう言えば今日は、人にも出会わぬひとり歩きの日だった。

-----  
霊仙に行ってからもう5年になるが、本当に熊が出るのか、出たのか、まだ半信半疑である。だが、あの看板があったことだけは確かである。ちゃんと写真にも撮ってある。

(石井 好明)

#####

「悪夢の如き夏期休暇」 小泉新策

残暑はや 幾日残して 夏は過ぐ  
めまぐるしきか この夏期休暇

政変も 漸く平静に おちつきぬ  
新政府の 動き 静かに観んか

今後とも 安定までは 幾曲折  
ありて 政事は 改善されんか

アウスビツチ 悪夢の惨劇 ことさらに  
過去の 恐怖を 探求すなり

我が故郷 山紫水明 誇り来しも  
悪魔か 狂人 降つて湧きたり

一躍に 狂ひ咲くかの 山野の野花  
観るだに 身の毛 よだつ思ひす

異常なる 性格者かも 惨忍な  
狂気の 行為 前代未聞

世の 交信放映 極度に 発達し  
法規人心 追従 及ばす

教育の 新世代向け 適切に  
撓まざるべく 努め行かずば



## 孫のようなベビーギャングにおどかされの記

平 林 信 隆

最近の都医会報の末尾に編集委員の先生と  
思うが、体強を記して居られた。「バカヤロ  
ー、そんな所からのぞくんじゃあねー」と女  
子中学生にどなられた話し。多分ステトを当  
てようとしての事と思う。

私は某月某日A中学に予防注射に行き予診  
をつとめた。暫くして大病ではない三年の男  
の子が、右額をそりこみ左額に髪を垂らして  
現われた。それが今床屋に行ったばかりの様  
に大変清潔に見えたので、何気なく君たち若  
い人の流行かときいたら「関係ねーじゃねー  
か」と一喝された。アッと気がついた。これ  
がソリコミと云うスタイルだったかとはじめ  
て分った。以前耳にした事はあったが、お目  
にかかったのは初めての事だった。本当、  
本当、関係ない事ですまん、すまんすんだ  
つもりだったが、注射の跡をもみながら再び  
私の前に来て「テメエ どの藝医者だ、外  
に出ろ、ぶっ殺してやる」と又怒鳴られた。  
子供が意気がってるだけの事、相手にする気  
もなく悪かった、悪かった、すまんと云って  
それですんだ。

自己顕示欲と、自分にも気づかれぬ劣等感  
の聖域にズカズカ踏みこんだ訳だから、ひど  
い反応を生じた事は理解出来る。大人が子供  
を相手にすれば非難されるのは大人の方だし  
逃げるが勝は決ったこと。体力的には小柄の  
十六才には負けぬ気はするが、ルールもしら  
ず何をしてかすか分らぬ幼若な野獣は怖い。  
学校で先生を刺したり誘拐した女子高生を殺  
してドラムカンにつめ棄てたりする世の中  
である。こんな連中は執念深い性喜と思以後

の予防注射は他の先生に交代していただき全  
部おことわりした。廊下で顔を合せてなぐら  
れてもバカバカしい。不安感と云うより、よ  
り現実的な恐怖感が強かった。

後味の悪い経験だが、いろいろ考えこんで  
妙に自己加罰的な気持になった。実は予診も  
二十分もすると疲れ気味で子供たちに何か話  
しかけて気分転換を計っていた。いかにも身  
心ともにスクスクと育った子供をみると、あ  
あ幸福な家庭で育った子供たちだナーと当方  
までたのしい気分になり、何番目の子かとか  
クラブ活動は何とかきいてみる。こんな子供  
たちに些少でもお役に立っていると思えば、  
老いの身も大変偉な気分になる。しかしそん  
な話しかけも、根気続かぬ原因からと思えば  
誠に申訳ない事だと痛切に感じて了つた。

以来車を走らせていても街頭に数人の中高  
生が群れていると緊張して了う様になった。

不可能な事だがソリコミの子供の心性の軌  
跡を辿ってみたい気もする。現体制的にみれ  
ば不幸な子供だナーと思うが、まだ一面反体  
制的でもあるし、良い意味の反体制、変革の  
斗士に育ってもいい事だと思う。学校教育は  
こーした問題には全く無力な事を痛感する。

英国の自由学園サマーヒルの創始者A, S,  
ニールは「問題児と云うものはない、問題  
をもつた子供がいるだけだ」と云っている。  
著者に「ハート、ノット、ヘッド」と云う本  
もある。残念乍ら春以来気の重い半年であっ  
た。

89. 8. 15

敗戦記念日に



氏名 山田不二子  
勤務先 青梅市立総合病院

氏名 山内 健二  
勤務先 福生病院

#### 会員通知

- 元年度第2期諸会費の納入について
- 多摩医学会演題募集のお知らせ
- 会員名簿正誤表
- 平成元年度予防技術職員研修受講生募集

- 第20回全国学校保健・学校医大会参加申込み
- 昭和63年度版「国民医療年鑑」の刊行について
- 医療廃棄物の処理について（付、パンフレット）
- 医療機関の廃棄物処理の手引
- 会報
- 「平成元年度日本医師会生涯教育講座」第一会場～第三会場の開催について
- 平成元年度特殊疾病講演会の開催について
- 9,10月レセプト提出日について

#### 表紙説明

##### 「韓信の股くぐり」

韓信は中国、前韓の武將で、蕭何、張元と共に三傑の一人で、少年の頃、悪童の「はづかしめ」を耐えて股をくぐったと伝えられている。これは秋川市上代継331番地に鎮座している「白滝神社」の本殿、側壁の絵柄で「けやき」の一枚板に「すかし彫り」風に彫

られている。どこの神社にも見られるものだが、同市雨間にある、雨武主神社のものは、飛騨の匠三六八代 後藤三次郎の作（一八四六年—一八四九年）となっており何れも精功な作品である。

#### あとがき

残暑お見舞い申し上げます。

今年の夏も昨年同様すかっとしないままに秋を迎えそうですが、小生の夏は甲子園の高校野球と共にある毎年です。高校球会にも中学生にプロ野球なみのスカウト合戦が繰り広げられると聞きますが、それでも『甲子園』が多くの感動を呼び起こすのは球児達のひたむきな野球にたいする情熱に起因するに他ならないでしょう。今年も名勝負、名場面が沢山あって選ぶに窮するが好みを言わせてもらえば、敗れたりとはいえ仙台育英の大越投手のけれんみの無い真っ向勝負は診療そっちのけでテレビの前に釘付けでした。特にキャッチャーのサインを見る時の目がなんとも良い。野球が好きで好きでたまらない、という目、監督をナインをそして自分を含め全てを信頼している目だった。清々しいとはあんな表情を言うのでしょうか。人は一生に一度はあんな

いい目になれる時が在るのだろう、ほんの短い時間でしようが。私が『甲子園』にひかれるのはまさにその「失われし時を求めて」なのかも知れない。そんなことを思いながら今年も小先の夏は終わりました。（真鍋）

平成元年9月1日発行

発行所 (社) 西多摩医師会

東京都青梅市西分3-103  
TEL (0428)23-2171(代)

会報編集委員 大嶽栄二

石井好明 栗原琢磨 小林杏一  
真鍋 勉 道又正達 百瀬眞一郎  
横田 博 渡辺良友

印刷所 マスタ印刷 TEL (0428)22-3047



くらしの知恵と情報を

ホームバンクの埼玉銀行



# 埼玉銀行

青梅支店 (TEL 0428-22-1101)

東青梅支店 (TEL 0428-22-2121)

青梅支店  
奥多摩特別出張所 (TEL 0428-83-2515)

福生支店 (TEL 0425-51-1021)

村山支店 (TEL 0425-61-1211)

五日市支店 (TEL 0425-95-1311)

河辺支店 (TEL 0428-24-2401)

秋川支店 (TEL 0425-58-2611)

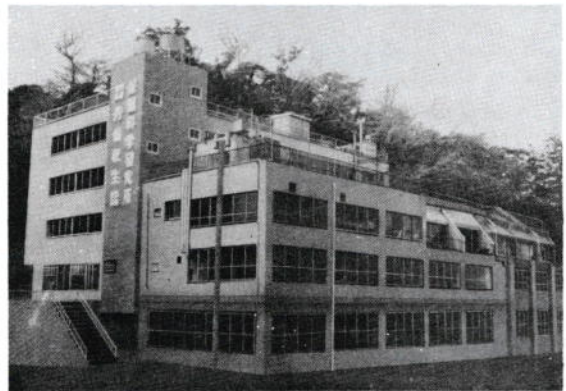
## 臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106

電話 045 (333) 1661 (大代表)

八王子市子安町3-17

電話 0426 (26) 2203・2204



○総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。

○完全オンラインシステム化を実現致しました。(データー通信システム)

○関係医療機関 約 3,500ヶ所

○広範囲な検査内容

- 内分秘学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
- 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

↓都川県の御得意先を毎日定期的集配致します。御一報を御待ち致します。